

教員の業績

学 科	職 名	氏 名	学 位
人間コミュニティ学科	教 授	後藤 明信	修士（文学）
担当授業科目	真宗学概論Ⅰ、真宗学概論Ⅱ、専門演習Ⅱ、中国仏教史、真宗の経典Ⅲ、仏教の思想Ⅱ、仏教入門（保育学科）、日本の言葉と文化		
所属学会	日本佛教学会、日本印度学仏教学会、真宗学会、真宗連合学会、真宗学研究学会、九州龍谷学会		
主な研究業績	<p>(著書) 後藤明信、他『月々のことば』、本願寺出版社、2012年。（共著）</p> <p>(学術論文) 後藤明信、「末法の時代における仏弟子—親鸞を中心として—」、『日本佛教学会年報』、第78号、pp. 29-52、2013年。</p>		

教員の業績

学 科	職 名	氏 名	学 位
人間コミュニティ学科	教 授	内野 安成	学士（教育）
担当授業科目	図書館概論、日本文学史、図書館制度・経営論、学校教育概論、児童文学、図書館実習、児童サービス論、図書及び図書館史、図書館施設論、専門演習Ⅰ・Ⅱ、就職対策講座、日本の言葉と文化		
所属学会	九州龍谷学会、佐賀大学国語・国文学会		
主 な 研 究 業 績	(学術論文)		
	内野安成、「日本語・日本文学・日本文化の特質に関する一考察」、『九州龍谷短期大学紀要』、第60号、pp.33-49、2014年。		
	内野安成、「大学図書館近代化への一考察～公立図書館民営化・学校教育ICT化の視点から」、『佐賀大國文』、第42号、pp.111-119、2014年。		
	内野安成、「大人になるための学校・家庭・社会づくり～生涯学習社会の方向を探る」、『九州龍谷短期大学紀要』、第61号、pp.71-84、2015年。		
	内野安成、今野厚子、『日本文学史』をどのように教えるか～現状と課題』、『九州龍谷短期大学紀要』、第62号、pp.1-33、2016年。		
	内野安成、「こころと魂の成長を促す図書館づくりへ」、『九州龍谷短期大学紀要』、第63号、pp.43-59、2017年。		
(学会発表等)			
内野安成、「読書の魅力と学校司書の役割」、口頭発表、第1回九州龍谷学会研究発表会、佐賀（九州龍谷短期大学）、2018年。			
内野安成、『AI vs . 教科書が読めない子どもたち』の衝撃と、読解・読書指導試論」、口頭発表、第2回九州龍谷学会学術研究発表会、佐賀（九州龍谷短期大学）、2019年。			
内野安成、「教えることと学ぶこと」、口頭発表、第3回九州龍谷学会学術研究発表会、佐賀（九州龍谷短期大学）、2020年。			

内野安成、「コロナ下の学びと読書・読解指導」、口頭発表、第4回九州龍谷学会学術研究発表会、佐賀（九州龍谷短期大学）、2021年。

内野安成「第66回学校読書調査報告から考える」口頭発表、第5回九州龍谷学会学術研究発表会、佐賀（九州龍谷短期大学）、2022年。

教員の業績

学 科	職 名	氏 名	学 位
人間コミュニティ学科	教 授	中尾 康朗	修士（ライブラリーサイエンス）
担当授業科目	図書館サービス概論、図書館情報資源概論、情報サービス論、情報サービス演習Ⅰ・Ⅱ、情報資源組織論、情報資源組織演習Ⅰ・Ⅱ、図書館サービス特論、図書館情報資源特論、図書館総合演習、記録情報管理論、情報技術論、パソコン基礎演習、統計基礎、データサイエンス入門、インターンシップⅠ・Ⅱ、専門演習Ⅰ・Ⅱ、日本の言葉と文化		
所属学会	日本図書館情報学会、情報処理学会、西日本図書館学会、九州龍谷学会、日本図書館協会		
主な研究業績	<p>(著書)</p> <p>山口真也、千錫烈、望月道浩、山川恭子、長谷川幸代、<u>中尾康朗</u>、今井武、中村克明、藤田節子、坂本俊、松井勇起、『(講座・図書館情報学6) 情報サービス論—情報と人びとをつなぐ図書館員の専門性』、ミネルヴァ書房、2018年。 (共著)</p> <p>(学術論文等)</p> <p>中尾康朗、「レファレンス事例とパスファインダーを用いたレファレンスサービス支援システムに関する考察」、『図書館学』、Vol.102、pp.9-18、2013年。 (単著)</p> <p>Nakao, Y., “Support System for Creating Pathfinder Using Reference Examples.” The Ninth International Conference on Information, Process, and Knowledge Management eKNOW 2017(ISBN:9781612085425), pp.44-48, 2017. (single author)</p> <p>中尾康朗、「図書館サービスにおける AI ロボットの活用」、『鹿児島国際大学情報処理センター研究年報』、No.24、pp.1-10、2019年。(単著)</p> <p>中尾康朗、「ヒューマノイド型ロボットを用いた図書館読み聞かせサービス支援に関する予備的検証」、『鹿児島国際大学情報処理センター研究年報』、No.25、pp.1-13、2020年。(単著)</p> <p>中尾康朗、「基本的な書誌データを用いた機械学習による NDC 分類に関する検</p>		

証』、『九州龍谷短期大学紀要』、No. 67、pp. 1-11、2021 年。(単著)

中尾康朗、「日本目録規則改訂に伴う司書資格科目の教授に関する試論」、『九州龍谷短期大学紀要』、No. 68、pp. 1-18、2022 年。(単著)

(学会発表等)

国際学会

Nakao, Y., “A Study on Support System of the Library Reference Service / Using Reference Examples and Library Pathfinders.” Oral presentation, IIAI International Conference on Advanced Applied Informatics (IIAI AAI 2013)/4th International Conference on E-Service and Knowledge Management (ESKM 2013), Japan (Matsue), 2013.

Nakao, Y., “Support System for Creating Pathfinder Using Reference Examples.” Oral presentation, The Ninth International Conference on Information, Process, and Knowledge Management eKNOW 2017, France (Nice), 2017.

国内学会

中尾康朗、「ユーザのセルフレファレンスのための検索支援-レファレンス事例とパスファインダー連携の可能性を探る」、口頭発表、第 60 回日本図書館情報学会研究大会、福岡（九州大学）、2012 年。

中尾康朗、「レファレンス事例とパスファインダーを用いたユーザへのレファレンス支援のための検索に関する研究」、口頭発表、平成 24 年度西日本図書館学会秋季研究発表会、福岡（福岡県立図書館）、2012 年。

中尾康朗、「九州龍谷短期大学図書館の歩み」、口頭発表、第 4 回九州龍谷学会学術研究発表会、佐賀（九州龍谷短期大学）、2021 年。

(その他)

研究資金

科学研究費助成事業；基盤研究(C)、代表「レファレンス事例データの特徴分析とパスファインダー作成支援に関する研究」(研究課題番号 19K12725)、2019-2021 年。

鹿児島国際大学情報処理センター研究員「AI ロボットを用いた図書館サービ

ス支援に関する研究」、2018-2019年。

記事等

中尾康朗、「平成25年度(第99回)全国図書館大会ハイライト第2分科会 大学・短大・高専図書館 図書館の学修支援を考える」、『図書館雑誌』、Vol. 107、No. 10、p. 619、2013; Vol. 108、No. 2、p. 85、2014年。(単著)

九州大学百年史九州大学百年史編集委員会、『九州大学百年史』、第6巻:部局史Ⅲ:第28編附属図書館、2017年。(分担執筆)

中尾康朗、「図書館というフィールドを通し情報リテラシー能力を育てる」、『鹿児島国際大学広報誌みなみ風』、2017秋号、Vol. 213、pp. 8、2017年。(単著)

中尾康朗、「空間としての図書館の魅力-ラブラーストによる二つの歴史的図書館」、『鹿児島国際大学図書館だより』、Vol. 38、pp. 3、2018年。(単著)

中尾康朗、「読書習慣によって、第二の天性がつくられる」、『九州龍谷短期大学図書館広報誌ふみくら』、Vol. 29、pp. 1、2021年。(単著)

教員の業績

学 科	職 名	氏 名	学 位
人間コミュニティ学科	教 授	江原由裕	学士（経済学）
担当授業科目	情報リテラシー、情報技術論、パソコン(応用)演習、デジタルデザイン基礎、映像編集、日本語、日本の言葉と文化		
所属学会	日本リメディアル教育学会、九州龍谷学会		
主 な 研 究 業 績	<p>(学術論文)</p> <p>月野直美、<u>江原由裕</u>、「主体的に生きる学生を育てる『キャリア教育』実践事例」『九州龍谷短期大学紀要』、第 61 号、pp. 55-69、2015 年。</p> <p>中村隆俊、<u>江原由裕</u>、角和博、穂屋下茂、「シネリテラシーを用いた市民映画制作プログラムの実践報告(実践報告、 審査付き)」『リメディアル教育研究』、第 11 巻、第 1 号、pp. 91-96、2016 年。</p> <p>(学会発表等)</p> <p><u>江原由裕</u>、月野直美、「初年次におけるキャリア教育の取り組み」、口頭発表、日本リメディアル教育学会第 6 回九州支部会、福岡(福岡大学)、2012 年。</p> <p><u>江原由裕</u>、木原すみ子、「司書・情報コースにおける専門演習の取り組み」、口頭発表、第 1 回九州龍谷学会学術研究発表会、佐賀(九州龍谷短期大学)、2017 年。</p> <p><u>江原由裕</u>、「マルチメディアコンテンツ制作を活用した授業の取り組み」、口頭発表、第 10 回日本リメディアル教育学会九州・沖縄支部大会、佐賀(九州龍谷短期大学)、2018 年。</p> <p><u>江原由裕</u>、「コロナ禍で分かったライブストーリーミングの有効性」、口頭発表、第 12 回日本リメディアル教育学会九州・沖縄支部大会、佐賀(サンメッセ鳥栖)、2020 年。</p> <p><u>江原由裕</u>、「シネリテラシーを用いた自主映画制作の実践研究」、口頭発表、第 4 回九州龍谷学会学術研究発表会、佐賀(九州龍谷短期大学)、2021 年。</p>		

教員の業績

学 科	職 名	氏 名	学 位
人間コミュニティ学科	准教授	宮原 正広	学士（芸術学）
担当授業科目	撮影基礎、撮影演習、制作実習Ⅰ・Ⅱ、シナリオ、卒業制作ドキュメンタリー研究、放送業務、基礎演習Ⅱ、日本の言葉と文化		
所属学会	九州龍谷学会		
主 な 研 究 業 績	<p>(学術論文)</p> <p>木原すみ子、宮原正広、「インターンシップの取り組みと成果の考察ー学生による自己評価と成果を中心にー」、『九州龍谷短期大学紀要』、第65号、pp. 1-21、2019年。</p>		
	<p>(学会発表等)</p> <p>宮原正広、「制作現場に学ぶー佐賀県立伊万里特別支援学校紹介ビデオ制作を通してー」、口頭発表、第3回九州龍谷学会学術研究発表会、佐賀（九州龍谷短期大学）、2020年。</p>		
	<p>木原すみ子、宮原正広、「インターンシップ履修に関するアンケート調査の分析と考察」、口頭発表、第2回九州龍谷学会学術研究発表会、佐賀（九州龍谷短期大学）、2019年。</p>		
	<p>(その他)</p> <p>テレビ番組作品</p> <p>佐賀県伝承芸能特番「まつりびと」、ディレクター、2012年～2017年。</p> <p>BSフジ「わがまま気まま旅気分」、ディレクター、2012年。</p> <p>佐賀県広報番組「さがものスゴ」、ディレクター、2014年～2017年。</p>		
	<p>PV作品</p> <p>財団法人地域創造助成事業「鳥栖御田舞記録、鳥栖御神幸祭」、ディレクター、2013年。</p> <p>財団法人地域創造助成事業「見島のカセドリ行事記録」、ディレクター、2016</p>		

年。

佐賀県立図書館「デジタル版佐賀の昔話」、制作協力・監修、2012年～2016年。

佐賀県立伊万里特別支援学校紹介ビデオ制作、制作協力・監修、2019年。

佐賀県立佐賀工業高校 Web 体験入学各科紹介ビデオ制作、制作協力 2020年。

真宗青年の集い佐賀県大会 Web オープニングビデオ制作、制作協力 2021年。

鳥栖市社会福祉協議会 HP 用館内紹介ビデオ制作、制作協力 2022年。

教員の業績

学 科	職 名	氏 名	学 位
人間コミュニティ学科	准教授	原田 泰教	博士（文学）
担当授業科目	基礎演習Ⅰ、仏教入門、宗教コミュニティ実習、仏教学概論Ⅰ、Ⅱ、専門演習Ⅰ、仏教讃歌と作法、日本仏教史、漢文学、日本語ⅢB、日本の言葉と文化		
所属学会	九州龍谷学会、日本印度学仏教学会、日本仏教学会、西日本印度学仏教学会		
主 な 研 究 業 績	<p>(学術論文)</p> <p>原田泰教、「『六師外道』の人間観」、『日本仏教学会年報』、第82号、pp.151-164、2017年。</p> <p>(学会発表等)</p> <p>原田泰教、「『六師外道』の人間観」、口頭発表、日本佛教学会2016年度学術大会第86回大会、兵庫（相愛大学）、2016年。</p> <p>原田泰教、「『教行信証』と龍樹菩薩」、口頭発表、第2回九州龍谷学会学術研究発表会、佐賀（九州龍谷短期大学）、2019年。</p>		

教員の業績

学 科	職 名	氏 名	学 位
人間コミュニティ学科	講 師	三原 健吾	博士（心理学）
担当授業科目	心理学概論 A・B、臨床心理学講読 I A・I B・II A・II B、臨床心理学概論 A・B、カウンセリング概論 A・B、コミュニケーション論、専門演習 I・II、日本の言葉と文化		
所属学会	日本心理学会、日本健康心理学会、日本ストレスマネジメント学会、日本生理心理学会、日本行動医学会、日本ストレス学会、日本行動科学学会、九州龍谷学会		
主 な 研 究 業 績	<p>(著書)</p> <p>津田 彰、<u>三原健吾</u>、「健康心理学が扱う領域」、太田信夫（監）、竹中晃二（編）、「(心理学と仕事 12) 健康心理学」、北大路書房、2017 年。(分担執筆)</p>		
	<p>(翻訳書)</p> <p><u>三原健吾</u>、津田彰、「ポジティブな心理的状态と生物学的プロセス」(範囲:第 4 章)、原著:ケノン・M・シェルドン、トッド・B・カシュダン、マイケル・F・ステイーガー、「ポジティブ心理学研究の転換点 —ポジティブ心理学のこれまでとこれから—」、福村出版、2021 年。(共訳)</p>		
	<p>(学術論文)</p> <p>Horiuchi, S, Tsuda, A, Prochaska J, Kobayashi, H, <u>Mihara, K</u>. 2012. “Relationships between stages and processes of change for effective stress management in japanese college students” <i>Psychology</i>, 3, 494-499. (Co-author)</p>		
	<p>矢野円郁、<u>三原健吾</u>、「複数回の反復プライミングにおける刺激固有性と加齢の効果」、『中京大学心理学研究科・心理学部紀要』、12 巻、 pp. 4-7、2013 年。(共著)</p>		
	<p>三原健吾、「小学校から中学校へ移行する広汎性発達障害児を対象とした面接過程」、『久留米大学大学院心理学研究科・心理教育相談センター紀要』、15 巻、pp. 33-38、2014 年。(単著)</p>		
	<p>岡村尚昌、<u>三原健吾</u>、矢島潤平、津田 彰、「心理社会的ストレスの精神神経内分泌免疫学的アプローチ」、『ストレス科学』、29 巻、pp. 29-44、2014 年。(共</p>		

著)

Yajima, J, Tsuda, A, Okamura, H, Urata, H, Matsubara, A, Mihara, K, Isomura, T, Takeda, K, Midoh, N. 2015. "Effects of soup intake for fourteen days on the mood and the difference in cortisol of awakening and evening in the clerical employees: An effectiveness study trial", *Psychology*, 6, 1108-1113. (Co-author)

津田 彰、松田 輝美、堀内 聡、伏島 あゆみ、三原 健吾、田中 芳幸、岡村 尚昌、金 ウィ淵、鄧 科、津田 茂子、矢島 潤平、「多理論統合モデル(TTM)にもとづくストレスマネジメント練習帳」、『久留米大学心理学研究』、15 巻、pp. 47-75、2016 年。(共著)

三原健吾、岡村尚昌、津田 彰、「ストレスマネジメントの生物心理学的メカニズムの探究」、『ストレスマネジメント研究』、12 巻、pp. 4-14、2016 年。(共著)

川口 恭輔、内田 直人、小谷 恵、三原 健吾、岡村 尚昌、矢島 潤平、津田 彰、「発酵乳の香りが自律神経活動および心理面に及ぼす影響」、『健康心理学研究』、30 巻、pp. 251-257、2018 年。(共著)

矢島 潤平、津田 彰、三原 健吾、「健康補助食品の現状と健康心理学の研究法を用いた効果検証のアプローチ」、『健康心理学研究』、30 巻、pp. 237-241、2018 年。(共著)

二瓶 正登、荒井 穂菜美、前田 香、青木 俊太郎、土屋垣内 晶、岩野 卓、富岡 奈津代、岡村 尚昌、三原 健吾、城月 健太郎、堀内 聡、坂野 雄二、「Fear of Negative Evaluation Scale 日本語短縮版の因子構造、信頼性および妥当性の再検討」、『不安症研究』、10 巻、pp. 54-63、2018 年。(共著)

米田健一郎、津田 彰、堀内 聡、三原健吾、岡村尚昌、田中芳幸、伏島あゆみ、松田英子、津田茂子、矢島潤平、「ポジティブ志、ストレスおよび心身の健康の関連」、『行動科学』、57 巻、pp. 115-122、2019 年。(共著)

米田 健一郎、津田 彰、堀内 聡、伏島 あゆみ、三原 健吾、田中 芳幸、岡村 尚昌、松田 英子、津田 茂子、内村 直尚、矢島 潤平、金原 さと子、「Stress Mindset Measure 邦訳版の信頼性と妥当性の検討」、『ストレスマネジメント研究』、15 巻、pp. 34-40、2019 年。(共著)

三原健吾、岡村尚昌、矢島潤平、津田 彰、「大学生における精神神経内分泌免疫学的反応と主観的健康感に対する eudaimonic well-being と hedonic well-being の分化的関連性」、『行動医学研究』、24 巻、pp. 84-96、2019 年。(共著)

Mihara, K., Okamura, H, Shoji, Y, Tashiro, K, Kinoshita, Y, Tsuda, A. 2020. “Personal Growth and Psychobiological Stress Responsiveness to the Trier Social Stress Test in Students” *Sustainability*, 12, 4497. (Co-author)

Okamura, H, Mihara, K., Tsuda, A, Morisaki, T, Tanaka, Y, Shoji, Y. 2020. “Subjective Happiness Is Associated with Objectively Evaluated Sleep Efficiency and Heart Rate during Sleep: An Exploratory Study Using Non-Contact Sheet Sensors”, *Sustainability*, 12, 4630. (Co-author)

三原健吾、岡村尚昌、「炎症反応とストレスマネジメント実践—基礎と臨床をつなぐ橋渡し研究の重要性—」、『ストレスマネジメント研究』、17 巻、pp. 24-34、2021 年。(共著)

Hakamata, Y, Mizukami, S, Izawa, S, Okamura, H, Mihara, K., Marusak, H, Moriguchi, Y, Hori, H, Hanakawa, T, Inoue, Y, Tagaya, H. 2021. “Implicit and explicit emotional memory recall in anxiety and depression: Role of basolateral amygdala and cortisol-norepinephrine interaction” *Psychoneuroendocrinology*, 136, 105598. (Co-author)

Okamura, H, Yajima, J, Mihara, K., Tsuda, A, 2021. “Psychobiological Responses with Work-Related Stress in Japanese Female Workers”, In: Di Fabio, A. (eds). *Cross-cultural Perspectives on Well-Being and Sustainability in Organizations*, Springer, pp 53-68. (Co-author)

(学会発表等)

国際学会

Mihara, K., Tsuda, A, Yajima, J, Okamura, H, Matsubara, A. “Is cup soup intake effective to stress reduction?” Poster presentation, International Conference of Asian Association of Indigenous and Cultural Psychology, Korea (Incheon), 2012.

Mihara, K., Tsuda, A, Okamura, H, Yajima, J. “Personal growth and psychobiological stress responses to acute laboratory stress” Poster presentation, 28th Conference of the

European Health Psychology Society, Austria (Innsbruck), 2014.

Tanaka, G, Mihara, K, Okamura, H, Tsuda, A. “A novel technology to measure finger arterial endothelial function and its relationship with anger, anger expression and sense of coherence in Japanese healthy youth” Poster presentation, 31st International Congress of Psychology, Japan (Yokohama), 2016.

Okamura, H, Mihara, K, Tsuda, A. “Study on the usefulness of non-contact sheet sensor for sleep evaluation: a comparison with actigraphy and sheet sensor” Poster presentation, 31st International Congress of Psychology, Japan (Yokohama), 2016.

国内学会

三原健吾、岡村尚昌、「炎症反応とストレスマネジメント実践—基礎と臨床をつなぐ橋渡し研究の重要性—」、口頭発表、第4回九州龍谷学会学術研究発表会、佐賀（九州龍谷短期大学）、2021年。

(その他)

外部的競争資金取得

日本学術振興会 科学研究費助成事業；若手研究、研究代表者、「持続的な健康に向けた心理的ウェルビーイングの機能解明：フィールド実験的研究」（研究課題番号 20K14243）、2020-2024年。

日本学術振興会 科学研究費助成事業；基盤研究(C)、研究分担者、「持続可能なウェルビーイング (SWB) のフィールド-実験統合研究」（研究課題番号 21K03058）、2021-2025年。

受賞

日本健康心理学会 Young Health Psychologist 賞、三原健吾、「Personal growth and psychobiological stress responses to acute laboratory stress」、2014年。

日本健康心理学会第32回大会 優秀発表賞（若手奨励部門）、三原健吾、岡村尚昌、津田 彰、「大学生における人格の成長感はノルアドレナリン神経系及び内分泌系機能に寄与する」、2019年。

日本行動医学会 第21回内山記念賞、三原健吾、岡村尚昌、矢島潤平、津田彰、「大学生における精神神経内分泌免疫学的反応と主観的健康感に対する

eudaimonic well-being と hedonic well-being の分化的関連性」、2019 年。

教員の業績

学 科	職 名	氏 名	学 位
保育学科	教 授	峯 晋	学士（教育学）
担当授業科目	保育者論、教育課程総論、保育内容総論、教育実習指導Ⅰ、教育実習指導Ⅱ、保育内容計画法、保育・教職実践演習（幼稚園）総合保育演習、幼児教育ゼミナールⅠ・Ⅱ、学校教育概論、ピアノD		
所属学会	九州龍谷学会、真宗保育学会、保育教諭養成課程研究会		
主 な 研 究 業 績	(学術論文)		
	峯 晋、「意欲をもって保育者を目指す学生を育てる指導法の研究～コードネームを取り入れたピアノ伴奏の取り組みを通して～」、『九州龍谷短期大学紀要』、第 67 号、pp. 13-37、2021 年。（単著）		
	峯 晋、藤井菜摘、「読譜を必要としないピアノ学修のための教材開発－保育者養成校の学生が有する困り感に基づいて－『九州龍谷短期大学紀要』、第 68 号、pp. 21-35、2022 年。（共著）		
	(学会発表等)		
	貞松征夫、松田順子、峯 晋、「幼児の豊かな人間力の基礎を培う ～真宗保育（まことの保育）からの一考察～」、口頭発表、第 24 回真宗保育学会佐賀大会、佐賀（九州龍谷短期大学）、2015 年。		
峯 晋、「保育者を目指す学生の意欲を高める研究～コードネームによるピアノ伴奏の取り組み実践を通して～」、口頭発表、第 3 回九州龍谷学会学術研究発表会、佐賀（九州龍谷短期大学）、2020 年。			
峯 晋、浅井太希、牧口千音美、弓琴音、「遊びを通じた総合的指導の取り組み～SDGs の観点から～」、口頭発表、第 5 回九州龍谷学会学術研究発表会、佐賀（九州龍谷短期大学）2022 年。			

教員の業績

学 科	職 名	氏 名	学 位
保育学科	教 授	鬼塚 良太郎	修士（心理学）
担当授業科目	子どもと人間関係、保育内容指導法人間関係、子ども家庭支援の心理学、子育て支援、特別支援教育概論 A、特別支援教育概論 B、社会的養護原理、社会的養護内容、障がい者福祉論、保育・教職実践演習（幼稚園）、幼児教育ゼミナールⅠ・Ⅱ、学校教育概論		
所属学会	日本リハビリテーション心理学会、九州龍谷学会		
主な研究業績	<p>(著書)</p> <p>鬼塚良太郎、他『障がい児保育の基本と課題』、学文社、2016年。（共著）</p> <p>鬼塚良太郎、他『保育者・教育者のための発達支援ガイドブック』、大学コンソーシアム佐賀、2017年。（共著）</p> <p>(学術論文)</p> <p>鬼塚良太郎、「療育活動へ参加した学生の自己評価に関する研究」、『九州龍谷短期大学紀要』、第65号、pp.61-75、2019年。（単著）</p> <p>(学会発表等)</p> <p>鬼塚良太郎、「保護者の心を開く特別支援」、口頭発表、第6回幼児教育実践学会、福岡・福島、2015年。</p> <p>鬼塚良太郎、「地域における発達障害のある幼児への支援力向上のための佐賀県5大学・短期大学の連携と取組み」、口頭発表、第12回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム分科会、石川、2015年。</p> <p>鬼塚良太郎、「幼稚園・保育所等での発達障害のある幼児に対する支援の課題と展望」、口頭発表、第24回日本LD学会大会企画シンポジウム分科会、福岡、2015年。</p> <p>(その他)</p> <p>記事等</p> <p>鬼塚良太郎、「援助を求める行動・発語の形成」、『久留米市幼児教育研究所紀</p>		

要』、第 51 集、pp. 35-37、2012 年。

鬼塚良太郎、「並行遊びから連合遊び」、『久留米市幼児教育研究所紀要』、第 51 集、pp. 38-41、2013 年。

鬼塚良太郎、「指さし理解」、『久留米市幼児教育研究所紀要』、第 53 集、pp. 9-11、2014 年。

鬼塚良太郎、「模倣」、『久留米市幼児教育研究所紀要』、第 55 集、pp. 25-28、2015 年。

鬼塚良太郎、「記憶を必要とする遊びの支援」、『久留米市幼児教育研究所紀要』、第 57 集、pp. 19-21、2016 年。

鬼塚良太郎、「二語文理解の促進」、『久留米市幼児教育研究所紀要』、第 59 集、pp. 30-33、2017 年。

鬼塚良太郎、「協力場面の形成」、『久留米市幼児教育研究所紀要』、第 59 集、pp. 34-36、2018 年。

鬼塚良太郎、「保護者会の進め方」、『久留米市幼児教育研究所紀要』、第 61 集、pp. 25-27、2020 年。

教員の業績

学 科	職 名	氏 名	学 位
保育学科	教 授	井手 典子	修士（美術教育）
担当授業科目	あそび学、保育内容指導法「造形表現」、総合保育演習、保育・教職実践演習、教育実習指導Ⅰ、教育実習指導Ⅱ、保育内容計画法、仏教保育表現、子どもと表現、幼児教育ゼミナールⅠ・Ⅱ		
所属学会	九州龍谷学会、真宗保育学会、初年次教育学会		
主 な 研 究 業 績	<p>(学術論文)</p> <p>井手典子、「造形教育における『アクティブラーニング』の研究～制作に有効に働く鑑賞活動～」、『九州龍谷短期大学紀要』、第 61 号、pp.101-114、2015 年。</p> <p>井手典子、「造形教育における『アクティブラーニング』の研究（2）～制作に有効に働く鑑賞活動～」、『九州龍谷短期大学紀要』、第 62 号、pp.109-125、2016 年。</p> <p>井手典子、「保育士を育てる授業方法の研究」、『九州龍谷短期大学紀要』、第 63 号、pp.93-108、2017 年。</p> <p>(学会発表等)</p> <p>井手典子、「造形教育におけるグループ活動の効果～造形活動の課題改善に向けて～」、口頭発表、第 2 回九州龍谷学会学術研究発表会、佐賀（九州龍谷短期大学）、2019 年。</p>		

教員の業績

学 科	職 名	氏 名	学 位
保育学科	教 授	余公 敏子	修士（教育学）
担当授業科目	教育原理、保育原理、幼児教育方法論、教育課程総論、学校教育概論、子どもと環境、保育内容指導法「環境」、子ども家庭支援論、保育実習指導Ⅰ・Ⅱ、保育内容計画法Ⅱ、保育実習Ⅰ・Ⅱ、保育・教職実践演習（幼稚園）、総合保育演習、幼児教育ゼミナールⅠ・Ⅱ		
所属学会	日本保育学会、日本乳幼児教育学会、日本子ども学会、九州龍谷学会		
主な研究業績	<p>(著書)</p> <p>余公敏子、『教育・保育の原理－幼稚園・保育所・認定こども園の文化をはぐくむために－』、光生館、2017年。（単著）</p> <p>余公敏子、他14名、『新・保育内容シリーズ 環境』、「第5章 子どもの発達と環境」、pp.33-40、一藝社、2018年。（共著）</p> <p>余公敏子、他9名、『福岡県保育士等キャリアアップ研修テキスト 幼児教育』、「第5章1 幼保小連携」、pp.86-90、福岡県保育士等キャリアアップ研修テキスト検討委員会、2018年。（共著）</p> <p>余公敏子、他10名、『道徳教育の理論と実践』、「第2章 幼児期における道徳教育」、pp.151-157、大学教育出版、2018年。（共著）</p> <p>余公敏子、余公裕次、『子どもの豊かな明日を育む教育原理』、第1章～第4章、第6章、第7章、第9章～第13章、光生館、2020年。（共著）</p> <p>余公敏子、他14名、『幼児教育方法論』、「第7章 教育課程と指導計画」pp.57-64、一藝社、2022年。（共著）</p> <p>(学術論文)</p> <p>余公敏子、「保育所保育に係る基準の変遷と保育課程に関する考察－幼稚園教育要領と保育所保育指針の関連及び保育課程の意味付けから－」、『九州地区国立大学教育系・文系研究論文集』、Vol.2、No.2、（掲載サイト）</p>		

<https://nuk.repo.nii.ac.jp/>、2015年。

余公敏子、「幼稚園文化と保育所文化の差異に関する考察 ～保育者文化とカリキュラム文化に着目して～」、『九州龍谷短期大学紀要』、第63号、pp. 61-76、2017年。

余公敏子、「組織文化の視点から見た幼稚園と保育所の関係の考察」、『九州龍谷短期大学紀要』、第64号、pp. 87-98、2018年。

余公敏子、大久保淳子、余公裕次、『アプローチカリキュラムの編成・実施を阻害する要因の考察—幼稚園等新任教諭の認知度に関連して—』『九州龍谷短期大学紀要』、第64号、pp. 99-111、2018年。

田中沙来人、余公敏子、「保育所実習における学生の学びに関する考察—保育所実習省察アンケート調査の記述結果から—」、『九州龍谷短期大学紀要』、第64号、pp. 137-149、2018年。

余公敏子、「保育者における認定こども園に対するイメージの組織文化論からの検討—保育者経験年数別アンケート調査を通して—」、『九州龍谷短期大学紀要』、第65号、pp. 37-60、2019年。

余公敏子、「幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園におけるリーダーシップ、フォロアーシップの検討—幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園の教職員への聞き取り調査を通して—」、『九州龍谷短期大学紀要』、第66号、pp. 31-54、2020年。

宇都宮紀雄、余公敏子「保育内容「環境」における学生の主体的活動を促す授業づくり—身近な素材を使ったおもちゃの製作に意欲付けを図る条件設定を通して—」、『九州龍谷短期大学紀要』、第67号、pp. 39-56、2021年。

田中沙来人、余公敏子、「保育学科の学生における社会人基礎力の認知の検討—卒業時期の学生におけるグループワークに基づいて—」、『九州龍谷短期大学紀要』、第67号、pp. 57-66、2021年。

余公敏子、「園文化の創造に関する一考察 —保育の改善を促進・阻害する要因の検討—」、『九州龍谷短期大学紀要』、第68号、pp. 37-55、2022年。

(学会発表等)

余公敏子、「幼稚園における教育課程の形成に関する考察—幼児教育史の観点から—」、口頭発表、日本乳幼児教育学会第 21 回大会、東京（東京成徳大学）、2011 年。

余公敏子、大久保淳子、井上和子、熊谷節子、「就学前教育における特別支援教育の現状と課題」、自主シンポジウムにおける司会と話題提供、日本乳幼児教育学会第 21 回大会、東京（東京成徳大学）、2011 年。

余公敏子、「今日の幼保一体化における教育課程形成上の課題」、口頭発表、日本保育学会第 65 回大会、東京（東京家政大学）、2012 年。

余公敏子、「新しい幼児教育観に基づく教育課程編成に関する考察」、口頭発表、日本保育学会第 66 回大会、福岡（中村学園大学・中村学園大学短期大学部）、2013 年。

余公敏子、「幼稚園文化と保育所文化の融合を図る幼児教育の課題」、口頭発表、日本乳幼児教育学会第 24 回大会、広島（広島大学）、2014 年。

余公敏子、「幼稚園文化と保育所文化の融合に関する考察」、口頭発表、日本乳幼児教育学会第 25 回大会、東京（昭和女子大学）、2015 年。

余公敏子、「幼稚園文化と保育所文化の関係性の検討」、口頭発表、日本保育学会第 69 回大会、東京（東京学芸大学小金井キャンパス）、2016 年。

余公敏子、「幼保連携に係る学校文化・組織文化の検討」、口頭発表、日本乳幼児教育学会第 26 回大会、兵庫（神戸女子大学）、2016 年

余公敏子、「幼稚園，保育所，認定こども園の関係性の検討—組織文化の視点による比較分析を中心に—」、口頭発表、日本保育学会 70 回大会、岡山（川崎医療福祉大学）、2017 年。

余公敏子、「認定こども園における組織文化の検討—幼保連携型認定こども園の調査を中心に—」、口頭発表、日本乳幼児教育学会第 27 回大会、福岡（西南学院大学）、2017 年。

余公裕次、大久保淳子、余公敏子、小堀晶弘、「幼保小連携の現状と課題」、自主シンポジウムにおける話題提供、日本乳幼児教育学会第 27 回大会、福岡（西南学院大学）、2017 年。

余公敏子、「認定こども園と幼稚園におけるリーダーシップ・フォロアーシップの検討」、口頭発表、日本保育学会第 71 回大会、宮城（宮城学院女子大学）、2018 年。

余公敏子、「認定こども園と保育所におけるリーダーシップ・フォロアーシップの検討」、口頭発表、日本乳幼児教育学会第 28 回大会、岡山（岡山コンベンションセンター）、2018 年。

余公裕次、大久保淳子、余公敏子、小堀晶弘、「幼保小連携の課題と展望」、自主シンポジウムにおける話題提供、日本乳幼児教育学会第 28 回大会、岡山（岡山コンベンションセンター）、2018 年。

田中沙来人、余公敏子、『保育学科における学生の社会人基礎力の認知の検討』、口頭発表、第 3 回九州龍谷学会学術研究発表会、佐賀（九州龍谷短期大学）、2020 年。

（その他）

研究資金

科学研究費助成事業；奨励研究、代表「幼稚園文化と保育所文化の融合に関する乳幼児教育保育の課題と展望」（研究課題番号 26907022）、2014 年。

教員の業績

学 科	職 名	氏 名	学 位
保育学科	准教授	田中 沙来人	修士（心理学）
担当授業科目	心理学概論、カウンセリング概論、心身の発達と学習過程Ⅰ、心身の発達と学習過程Ⅱ、保育実習指導、卒業研究、幼児教育ゼミナールⅠ・Ⅱ		
所属学会	日本心理臨床学会、心理リハビリテーション心理学会、西日本心理劇学会、九州龍谷学会		
主 な 研 究 業 績	<p>(学術論文)</p> <p>田中沙来人、「大学生における親からの期待に対する役割緊張とアイデンティティ形成との関連」、『心理劇研究』、第35巻、pp. 35-46、2012年。</p> <p>田中沙来人、小津永治、吉川桃子、座間味愛理、遠矢浩一、針塚進、「発達障害児のための集団心理療法「もくもくグループ」の検討：CBCL・WISCⅢによる子どもの行動特徴と認知的特徴の縦断的検討」、『九州大学総合臨床心理研究』、第4巻、pp. 69-76、2013年。</p> <p>藤野正和、田中沙来人、遠矢浩一、針塚進、「発達障害児のための集団心理療法「もくもくグループ」の検討：グループ参加者に対する予後調査」、『九州大学総合臨床心理研究』、第4巻、pp. 11-17、2013年。</p> <p>菊池悌一郎、水内良子、尹成秀、児玉恵美、高橋正泰、田中沙来人、「九州工業大学における心理カウンセラーによる発達障害学生への支援に関する実態調査」、『九州工業大学保健センター年報』、第7巻、pp. 122-133、2017年。</p> <p>田中沙来人、余公敏子、「保育所実習における学生の学びに関する考察—保育所実習省察アンケート調査の記述結果から—」、『九州龍谷短期大学紀要』、第64号、pp. 137-149、2018年。</p> <p>志方亮介、田中沙来人、古賀聡、針塚進、「青年期の反動的自己認知の差異からみた適応様式の類型と精神的健康との関連」、『九州大学総合臨床心理研究』、第9巻、pp. 19-30、2018年。</p> <p>裊 孝承、藤野 正和、ヴィラーグ ヴィクトル、井手一雄、田中沙来人、川邊</p>		

浩史、「九州西部地域の子ども・子育て支援ニーズ -子ども支援団体の支援者のインタビュー調査結果を中心に-」、『長崎国際大学論叢』、第 22 巻 pp. 103-111、2022 年

(学会発表)

小澤永治、座間味愛理、吉川桃子、田中沙来人、遠矢浩一、針塚進、「発達障害児のための集団心理療法「もくもくグループ」の検討 (1) : CBCL による子どもの行動特徴の縦断的検討」、ポスター発表、心理臨床学会第 30 回大会、福岡 (福岡国際会議場他)、2012 年。

田中沙来人、吉川桃子、座間味愛理、小澤永治、遠矢浩一、針塚進、「発達障害児のための集団心理療法「もくもくグループ」の検討 (2) : WISC-III による子どもの認知的発達の縦断的検討」、ポスター発表、心理臨床学会第 30 回大会、福岡 (福岡国際会議場他)、2012 年。

座間味愛理、小澤永治、田中沙来人、吉川桃子、遠矢浩一、針塚進、「発達障害児のための集団心理療法「もくもくグループ」の検討 (3) : 卒業生を対象とした抑うつ傾向・適応感の追跡調査から」、ポスター発表、心理臨床学会第 30 回大会、福岡 (福岡国際会議場他)、2012 年。

吉川桃子、田中沙来人、座間味愛理、小澤永治、遠矢浩一、針塚進、「教師の発達障害的特徴の自己認知と子どもの問題行動評価との関連」、ポスター発表、心理臨床学会第 30 回大会、福岡 (福岡国際会議場他)、2012 年。

田中沙来人、「大学生における役割緊張の類型と適応感、多次元自我同一性尺度、就職動機との関連」、口頭発表、第 37 回西日本心理劇学会、長崎、2013 年。

面高有作、水内良子、本吉大介、久桃子、本吉菜つみ、島田乃梨子、田中沙来人、座間味愛理、藤野正和、池田恭子、岩男英美、瀬戸山悠、水貝洵子、遠矢浩一、「学童保育における指導員への臨床心理学的支援に関する調査研究」、口頭発表、第 39 回日本リハビリテーション心理学会、岩手 (メトロポリタン盛岡)、2013 年。

田中沙来人、「大学生における役割緊張の背景の質的検討 : 自由記述による分類から」、口頭発表、第 38 回西日本心理劇学会、熊本、2014 年。

田中沙来人、余公敏子、『保育学科における学生の社会人基礎力の認知の検討』、口頭発表、第3回九州龍谷学会学術研究発表会、佐賀（九州龍谷短期大学）、2020年。

(その他)

藤野 正和、志賀 信夫、ヴィラーグ ヴィクトル、裴 孝承、井手 一雄、田中 沙来人、川邊 浩史「子どもの life」にかかわる調査研究、『九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム事業 子ども育成専門委員会共同研究会』、2021年

教員の業績

学 科	職 名	氏 名	学 位
保育学科	講 師	藤井 菜摘	修士（教育学）
担当授業科目	あそび学、子どもと表現、保育内容指導法「音楽表現」、ピアノ A・B・C・D、仏教讃歌と作法、合奏・合唱、幼児教育ゼミナール I・II、総合保育演習 I・II・III、教職実践演習（幼稚園）		
所属学会	日本音楽教育学会、日本音楽知覚認知学会、音楽学習学会、中国四国教育学会、比較舞踊学会、九州龍谷学会		
主 な 研 究 業 績	<p>（著書）</p> <p>藤井菜摘、他『ライブ！ 音楽指導クリニック① スキマ時間を活用した音楽科授業プラン』、第3章第3節を執筆、八木正一（監）、城佳世（編）、2021年。</p> <p>（学術論文）</p> <p>藤井菜摘、「コンテンポラリーダンサーが音楽から受ける影響についての一考察—情報の違いによって舞踊動作がどのように変化するか—」、『教育学研究紀要』、第63巻、pp.704-709、2018年。</p> <p>藤井菜摘、「コンテンポラリーダンサーは音楽からどのような発想を得て舞踊動作に至っているのか：再生刺激法を用いてダンサーの思考を明らかにする」、『音楽文化教育学研究紀要』、第30巻、pp.73-80、2018年。</p> <p>藤井菜摘、「コンテンポラリーダンサーの身体知形成に関する研究—コンテンポラリーダンスのレッスンにおける音楽の役割を中心に—」、『教育学研究紀要』、第64巻、pp.293-297、2019年。</p> <p>藤井菜摘、「コンテンポラリーダンサーのウォーミングアップ時の選曲に関する研究：音楽がコンテンポラリーダンサーの動きに与える影響についての一考察」、『音楽文化教育学研究紀要』、第31巻、pp.91-98、2019年。</p> <p>藤井菜摘、「コンテンポラリーダンサーの舞踊観の変遷に関する研究—コンテンポラリーダンサーの〈語り〉から—」、『教育学研究紀要』、第64巻、pp.465-470、2020年。</p>		

藤井菜摘、「幼児曲における「クラシック音楽的」読譜に対する提言 —保育者に求められるピアノの技術を育むために—」『九州龍谷短期大学紀要』第 67 号、pp. 83-98、2021 年。

藤井菜摘、「経験的に蓄積された音楽観を引き出すための ICT 活用に関する一考察—中学校 3 学年の創作活動における探索的実践—」『教育学研究紀要』第 66 巻、pp. 345-350、2021 年。

峯晋・藤井菜摘、「読譜を必要としないピアノ学修のための教材開発 —保育者養成校の学生が有する困り感に基づいて—」『九州龍谷短期大学紀要』第 68 号、pp. 21-35、2022 年。

藤井菜摘、「保育者養成校の学生によるピアノアレンジの成果と課題—幼児曲に合わせたペープサートの実践報告と学生の振り返りの分析から—」『教育学研究紀要』第 67 巻、pp. 602-607、2022 年。

(学会発表等)

藤井菜摘、「コンテンポラリーダンサーが音刺激に影響されて即興で動くことに関する研究—コンテンポラリーダンサーへのインタビューをとおして—」、口頭発表、日本音楽教育学会第 49 回岡山大会、岡山 (岡山大学)、2018 年。

藤井菜摘、「コンテンポラリーダンサーの身体知形成に関する研究—コンテンポラリーダンスのレッスンの観察と指導者へのインタビューをとおして—」、中国四国教育学会第 70 回大会、口頭発表、島根 (島根大学)、2018 年。

藤井菜摘、「コンテンポラリーダンサーの動きの癖と音楽との関わり」、ポスター発表、日本音楽知覚認知学会平成 30 年度秋季研究発表会、京都 (龍谷大学)、2018 年。

Fujii Natsumi、「A Study on the Formation of the Physical Intuition of Contemporary Dancers: Focusing the Music Influence in the Physical Movement on the Contemporary Dance Workshop」、ポスター発表、12th Asia-Pacific Symposium for Music Education Research、マカオ (マカオ工科大学)、2019 年。

藤井菜摘、「コンテンポラリーダンサーが「考えずに動く」ことに関する一考察—モーションキャプチャによる定量的データ分析の試み—」、ポスター発

表、日本音楽教育学会第 50 回東京大会、東京（東京藝術大学）、2019 年。

藤井菜摘、「コンテンポラリーダンサーの舞踊観の変遷に関する研究—コンテンポラリーダンサーの〈語り〉から—」、口頭発表、中国四国教育学会第 71 回大会、愛媛（松山大学）、2019 年。

藤井菜摘、「ICT 機器を活用した創作の授業の展開—中学 3 年生音楽科における実践—」、口頭発表、中国四国教育学会第 72 回大会、オンライン開催、2020 年。

企画・司会：小川容子、話題提供：妹尾佑介・三村悠美子・武田聡一郎・藤井菜摘、指定討論：清田哲男「越境する創造性の育成—創造性の深化と芸術教育—」、自主企画シンポジウム、日本教育心理学会第 63 回大会、オンライン開催、2021 年。

藤井菜摘、「幼児曲における音楽表現の検討—学生によるアレンジの考察—」、口頭発表、中国四国教育学会第 73 回大会、オンライン開催、2021 年。

（その他）年号別に（カテゴリー別）

第 1 回修大ふぁみりーフェスタ ♪♪ようこそ！はじめてのオペラ vol.1 オペラ『まほうの笛〈魔笛〉』制作・出演、2017 年。

平成 30 年度西条特別支援学校音楽鑑賞会 出演、2018 年。

平成 30 年度近畿大学附属高等学校・中学校芸術鑑賞会 オペレッタ『こうもり』制作・出演（オルロフスキー公爵役）、2018 年。

広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学講座 第 44 回定期演奏会 合唱ステージ『戴冠ミサ』アルトソリスト、2018 年。

西志和中央保育園音楽研修会リコーダーアンサンブルコンサート 制作・出演、2019 年。

令和元年度瀬野川東中学校芸術鑑賞会『再考しよう身近な“楽器” 声と笛の調べ』制作・出演、2019 年。

比治山大学オペラコンサート 2020 制作・出演、2020 年。

オンライン配信コンサート にしむらせいこと愉快的仲間たち ～コロナを吹き飛ばせ！佐賀から感謝を込めて～出演、2021 年。

野田秀樹演出『フィガロの結婚』～庭師は見た！～ 合唱エキストラ出演、2020 年。

アイメイト（盲導犬）チャリティコンサート、出演、2020 年。

ニューイヤーコンサート 2021 YouTube オンライン生配信、出演、2021 年。

龍谷こども園ひなまつりコンサート『龍ちゃんの世界旅行』、制作・出演、2021 年。

音楽の散歩道 vo. 12 ～オペラ名場面集～（文化庁 令和 2 年度第 3 次補正予算事業 ARTS for the future!採択事業）、出演、2021 年。

die kollegen in Saga -online concert-（LiveS Beyond 採択事業）、出演、2021 年。

アイメイト（盲導犬）チャリティコンサート、出演、2021 年。

2022 ニューイヤーコンサート 音楽家たちの饗宴（LiveS Beyond 採択事業）、出演、2022 年。

教員の業績

学 科	職 名	氏 名	学 位
保育学科	講 師	高井 翔海	博士（音楽）
担当授業科目	ピアノ A・B・C・D、保育内容指導法「音楽表現」、卒業研究、総合保育演習 I・II・III、保育・教職実践演習（幼稚園）、英米の言葉と文化、英語 I・II・III、幼児教育ゼミナール I・II		
所属学会	日本保育学会、日本音楽表現学会、米国 Music Teachers National Association、九州龍谷学会		
主 な 研 究 業 績	<p>(学術論文)</p> <p>Takai, Natsumi. 2017. “Corigliano’s Fantasy on an Ostinato,” [Unpublished degree’s required treatise, University of South Carolina].</p> <p>Takai, Natsumi. 2018. “Landscape of Britten’s Childhood and Youth: The Origin of his Music Language,” [Unpublished degree’s required treatise, University of South Carolina].</p> <p>Takai, Natsumi. 2021. “Ten Years of Japanese Piano Pedagogy (2009-2018) through a Survey of Educational Resources,” [Doctoral dissertation, University of South Carolina]. ProQuest Dissertations Publishing.</p> <p>高井翔海、「保育者養成校におけるピアノクラス教授方法に関する分析」、『九州龍谷短期大学紀要』 第 68 号、pp. 57-69、2022 年。</p> <p>(学会発表等)</p> <p>Hwang, Marina. <u>Natsumi Takai</u> and Soobin Lee. 2015. “Discovery of Pre-reading Approaches in American Method Books,” poster presentation, Michigan Music Teachers Association Annual Conference, Michigan. (Co-author)</p> <p>Hwang, Marina and Natsumi Takai. 2016. “Scores and Editions of Early Opera Recitative,” poster presentation, Ohio University Piano Pedagogy Seminar, Ohio. (Co-authors)</p>		

Takai, Natsumi. 2017. “French Solfege Method: Formation Musicale, and its Application to the Standard Teaching Repertoire,” poster presentation, Music Teachers National Association Annual Conference, Maryland.

Takai, Natsumi. 2017. “Improving Personal Space: The Benefits of Piano Duet Improvisation for people with ASD,” poster presentation, World Congress of Music Therapy, Ibaraki, Japan.

Khux, Xu and Natsumi Takai. 2017. “Piano Method Book Survey Based on Music Learning Theory Concepts,” poster presentation, The Sixth International Conference on Music Learning Theory by The Gordon Institute for Music Learning, Illinois. (Co-authors)

高井翔海, 小島エマ、「エドウィン・ゴードンのミュージック・ラーニング・セオリー～発達心理学から生まれた音楽教育的手法～」、口頭発表、日本保育学会、宮城（宮城女子学院大学）、2018年。（共同発表）

小島エマ、高井翔海、「エドウィン・ゴードンのミュージック・ラーニング・セオリーに基づく 乳幼児音楽アクティビティ実践モデル」、口頭発表、日本保育学会、宮城（宮城女子学院大学）、2018年。（共同発表）

Takai, Natsumi. 2019. “Pedal Pedagogy: Fun Facilitations for Beginners,” poster presentation, National Conference of Keyboard Pedagogy, Illinois.

（その他）

翻訳

Dumlavwalla, Diana. 高井翔海(訳)、「オンラインレッスンの卓越性:ビデオ会議形式プラットフォームを使用した指導のコツ」、The Frances Clark Center、2020年。

セミナー

高井翔海、小島エマ、「エドウィン・ゴードンのミュージックラーニングセオリー」、音楽教育者のためのミュージシャンシップ研究会第1回プレセミナー、2021年。

高井翔海、小島エマ、「乳幼児音楽サークルの実践法と理論」音楽教育者のためのミュージシャンシップ研究会第2回プレセミナー、2021年。

高井翔海、小島エマ、「聴く！歌う！作る！乳幼児から9歳までの音楽学習プロセスとは」音楽教育者のためのミュージシャンシップ研究会第1回セミナー、2021年。

高井翔海、小島エマ、「MLTミュージシャンシップ！小学校音楽一般への応用：歌唱から、読譜や作曲プロジェクトへ」音楽教育者のためのミュージシャンシップ研究会第2回セミナー、2021年。

高井翔海、小島エマ、「MLTピアノ・他楽器への応用実践：歌唱から、読譜やピアノへの誘導方法とは」音楽教育者のためのミュージシャンシップ研究会第3回セミナー、2021年。

小島エマ、高井翔海、「合唱ウォームアップ！脱ルーティンの発声練習」音楽教育者のためのミュージシャンシップ研究会第4回セミナー、2021年。

高井翔海、小島エマ、「5歳児までのミュージシャンシップ：音感の評価方法とスキルに合わせたアプローチ法」音楽教育者のためのミュージシャンシップ研究会第5回セミナー、2021年。

高井翔海、小島エマ、「第1回 ふれあいあそび、うたあそび、優しい時間」ムジカルバ音楽院主宰 音楽遊びセッション、2021年。

高井翔海、小島エマ、「第2回 ふれあいあそび、うたあそび、優しい時間」ムジカルバ音楽院主宰 音楽遊びセッション 2021年。

高井翔海、小島エマ、「第3回 ふれあいあそび、うたあそび、優しい時間」ムジカルバ音楽院主宰 音楽遊びセッション 2022年。

監修

音楽教育者のためのミュージシャンシップ研究会 セミナー講師 (2021年-)

ムジカルバ音楽院 音楽教師育成 (2021年-)

リサイタル

ミシガン州立大学学位リサイタル、2014年。

ミシガン州立大学大学院学位リサイタル、2016年。

Annual Teachers' Recital, Michigan Music Teachers' Association Capital Area Metropolitan Teaching Association, 2016.

サウスカロライナ大学大学院学位リサイタル、2018年。

サウスカロライナ大学大学院学位リサイタル、2019年。

MUSICALBA 主催コンサート：ピアノデュオコンサート&オペラアリア、2021年。

伴奏

ミシガン州立大学オーケストラ（ピアノパート担当）、2012年、2013年。

ミシガン州立大学大学院室内楽コンサート（オーボエ Juliana Lopez とフルート Colton Sayre）、2013年。

PianoMasterpieces イタリア短期留学でのソロコンサート、Michigan State University and Aula Magna Liceo Scientifico, 2013年。

Potopurri イタリア短期留学での連弾コンサート、Michigan State University and Aula Magna Liceo Scientifico, 2013年。

Cello Plus イタリア短期留学でのチェロコンサート Michigan State University and Aula Magna Liceo Scientifico, 2013年。

室内楽コンサート、Grand Blanc High School, 2013年、2014年。

ミシガン州立大学大学院 Matt Gibson コントラバスリサイタル、2015年。

ミシガン州立大学大学院 Joy Rol コントラバスリサイタル、2015年。

Michigan Music Teaching Association 主催声楽コンクールファイナルステージ、

2015 年。

Encore IV, Capolavori al pianoforte イタリア短期留学でのソロコンサート, Michigan State University and Centro Studi Della Giacoma, 2015 年。

Encore IV, Potpourri イタリア短期留学での連弾コンサート, Michigan State University and Centro Studi Della Giacoma, 2015 年。

Encore IV, Concierto de Aranjue イタリア短期留学での声楽コンサート, Michigan State University and Centro Studi Della Giacoma, 2015 年。

ミシガン州立大学大学院英語歌曲コンサート、2015 年。

ミシガン州立大学大学院ドイツ歌曲コンサート、2015 年。

ミシガン州立大学大学院フランス歌曲コンサート、2016 年。

ミシガン州立大学大学院 Matthew Boothe コントラバスリサイタル、2016 年。

サウスカロライナ大学大学院 Opera Workshop 授業コンサート、2016-2019 年。

サウスカロライナ大学 Serena Hill LaRoche 声楽門下コンサート、2017-2019 年。

サウスカロライナ大学 Jennifer Parker-Harley フルート門下コンサート、2017-2019 年。

South Carolina Flute Society Spring Festival コンクール、2019 等。

教員の業績

学 科	職 名	氏 名	学 位
保育学科	講 師	永富 達也	修士（教育学）
担当授業科目	子どもと健康、保育内容指導法「健康」、生涯スポーツⅠ・Ⅱ、レクリエーション実技Ⅰ・Ⅱ、レクリエーション概論、あそび学、施設実習指導Ⅰ・Ⅱ、施設実習Ⅰ・Ⅱ、幼児教育ゼミナールⅠ・Ⅱ		
所属学会	九州体育・スポーツ学会、九州レジャーレクリエーション学会、九州龍谷学会		
主な研究業績	<p>(学術論文)</p> <p>井上伸一、吉田和人、八嶋文雄、齋藤健治、<u>永富達也</u>、中島俊介、中島達矢、「子どものランニングフォームを矯正するための一方法」、『佐賀大学教育学部研究論文集』第2集、pp.1-5、2018年。</p> <p>松山郁夫、中村理美、<u>永富達也</u>、井上伸一、坂元康成、「発達障害児の運動を中心とする自由遊びにおける支援の意義」、『佐賀大学教育実践研究』第38号、pp.21-30、2020年</p> <p>井上伸一、井上希凜、齋藤健治、渡邊正和、<u>永富達也</u>、「ニューラルネットワークを用いて歩行能力を簡便に評価するシステムの開発」、『日本バイオメカニクス学会第26回大会講演論文集』p.60、2020年。</p> <p>井上伸一、井上希凜、齋藤健治、渡邊正和、山津幸司、<u>永富達也</u>、「ニューラルネットワークによる歩行モデルの構築と歩行能力の評価」、『佐賀大学教育学部研究論文集』第5集、pp.1-5、2021年。</p> <p>松山郁夫、中村理美、<u>永富達也</u>、井上伸一、坂元康成、「発達障害児の運動を中心とする自由遊びの場に対する保護者とトレーナーの捉え方」、『佐賀大学教育実践研究』第39号、pp.81-91、2021年。</p> <p>永富達也、坂元康成「保護者の関与が少年サッカーの技能に及ぼす影響」、『佐賀大学教育学部研究論文集』第6集、pp.57-61、2021年。</p> <p>(学会発表等)</p>		

永富達也、坂元康成、池上寿伸、堤公一、児玉進二、「保護者の関与が運動技能に及ぼす影響-少年サッカーに着目して」、口頭発表、九州体育・スポーツ学会第 64 回大会、佐賀（西九州大学）、2015 年。

永富達也、井上伸一、「ラダートレーニングの高齢者の運動能力向上への有効性」、口頭発表、九州体育・スポーツ学会第 68 回大会、鹿児島（鹿児島大学）、2019 年。

教員の業績

学 科	職 名	氏 名	学 位
保育学科	講 師	筒井 ゆう子	学士（文学）
担当授業科目	日本語表現法演習Ⅰ・Ⅱ、子どもと言葉、あそび学、 幼児教育ゼミナールⅠ・Ⅱ、保育内容指導法「言葉」		
所属学会	九州龍谷学会		
主 な 研 究 業 績	<p>(著書)</p> <p>(学術論文)</p> <p>(学会発表等)</p> <p>(その他)</p> <p>筒井ゆう子、「論語」、校内研究授業、佐賀学園高校成穎中学校、2016年。</p> <p>筒井ゆう子、「効果的に表現するICT授業」校内研究授業、佐賀学園高校成穎中学校、2020年</p> <p>筒井ゆう子、「思考力や想像力を働かせて読む」校内研究授業、佐賀学園高校成穎中学校、2021年</p>		